



大会レポート

# 第70回都市計画全国大会

～宮崎県宮崎市～

茨城県高萩工事事務所 三浦 祥之介

平成30年10月25日から26日まで、第70回都市計画全国大会が宮崎県宮崎市で開催されました。

全国から都市計画やまちづくり行政に携わる関係者が集まり、事例発表や意見交換、現地調査が行われました。



## ■大会1日目

### ○主報告(国土交通省大臣官房技術審議官 徳永幸久氏) 「都市行政をめぐる最近の動きについて」

昨今、人口減少・高齢化や公共交通の縮小などの課題から、生活サービス機能や居住を集約・誘導し、人口を集積することと、まちづくりと連携した公共交通ネットワークの再構築を合わせた「コンパクト・プラス・ネットワーク」を推進しています。国では、関係府省庁で構成するコンパクトシティ形成支援チームを通じ、市町村の取組みを支援しています。平成30年度からは「地方再生コンパクトシティ」のモデル都市を選定し、ハード・ソフト両面から重点的な支援を始めたとのことでした。

また、IoT、ロボット、人工知能(AI)、ビッグデータといった社会の在り方に影響を及ぼす新たな技術の開発が進んできており、これらの技術をまちづくりに取り込み、都市の抱える課題の解決を図っていくことが求められているとのことでした。このことから、スマートシティの実現に向けた取組みが動き始めたとのことでした。

### ○部会報告(第1部会)「ハード・ソフトを組み合わせた災害に強いまちづくり」

テーマごとに3つの部会に分かれて報告が行われました。

#### <報告1>「南海トラフ巨大地震に備えた宮崎市の取り組みについて」

宮崎県宮崎市は、南海トラフ巨大地震に備え、安全な地域への避難が困難で、一時避難場所やビル等が存在しない地域への津波避難タワーの整備などのハード対策のほか、ソフト対策として、津波ハザードマップの作成・

配布に加え、出前講座による住民への周知・啓発を行っています。また、大規模災害時に中長期に渡って避難所が開設された場合を想定し、避難所ごとに個別避難所運営マニュアルの作成を地域の方々も交えて検討を行い策定しているとの報告がありました。

#### <報告2>「徳島県美波町における津波対策の取り組みについて」

徳島県美波町は、海岸沿いの平地に市街地が開けていることから、市街地の多くが津波浸水想定区域となっています。そのため、避難段階の整備による避難路の確保や、防潮堤整備による避難時間の確保など、避難に向けた整備を進めています。また、応急仮設住宅の不足や、用地確保が困難になることも想定し、耕作放棄地等を応急仮設住宅候補地として確保を進めています。公共施設の高台移転も進めているほか、UR都市機構と「津波防災まちづくりの推進に向けた協定」を締結し、協力して津波防災まちづくりに取り組んでいると報告がありました。

#### <報告3>「津波防災地域づくり推進計画に基づく防災対策とまちづくり」

和歌山県串本町は、南海トラフ巨大地震発生時には、津波到達時間最速2分という全国で一番早く津波が到達する町とされています。防災施設の整備や補助制度の拡充を進めていますが、行政でどんなに効果的な防災対策を講じても、町民一人一人が避難するという行動をとらなければ意味がないことから、町民の防災意識向上のための啓発活動も積極的に行っています。防災出前講座は、年間20回以上行っており、近い将来に起こるであろう大震災時に、次世代を担う子供たちに防災のリーダーとなってもらうことを目的とし、小中学校、高校での避難訓練も積極的に行っているとの報告がありました。

### ○記念講演

#### 「風景から考えるこれからの都市計画の思想」 東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻

中井 祐 教授

中井教授は、岩手県上閉伊郡大槌町の東日本大震災か



らの復興支援に参加した際、近代の都市計画への違和感を覚え、そのことについてのご講演でした。

近代都市計画の特質は、土地の合理的利用（土地区画整理事業に代表されるように、土地を公と私の2色に余白を残さず塗り分けるものになっている）である。

また、河川堤防全体をコンクリートで覆うなど、機能の特化が自然や人間を疎外し、風景が失われてきている。都市に「土地の佇まい」としての風景を取り戻すには、身近な日常の価値を共有できるパブリックなスペースが必要とのことでした。

## ■大会2日目

3班に分かれての現地研修が行われ、私は「県央・県西コース（宮崎市・都城市）」に参加しました。

### ①都城市都市再生整備計画事業（都城市）

都城市ではモータリゼーションの進展に対応した郊外型大規模小売店舗の急増等により、中心市街地の集客力が低下。平成23年に最後の中心市街地中核店舗「都城大丸」が閉店し、跡地再生が課題となっていました。そうした中、都城商工会議所を中心（都城市も協力）としてワークショップ等を実施し、市民ニーズを集約のうえ、事業に着手。平成30年4月に図書館、子育て世代活動支援センター、地域交流センター、多目的広場等からなる中核施設が開館。図書館は、開館から半年で来場者が90万人を突破するなど、非常に集客力のある施設でした。



中核施設「Mallmall（まるまる）」



図書館



子育て支援センター

### ②都城市早水公園整備事業（都城市）

早水公園は市民のスポーツ・レクリエーション・休息等の推進の場として、昭和44年から様々な施設を順次整備してきました。災害発生時に拠点となる防災施設としての機能拡充を図り、近接する都城病院と連携した医

療基地としての活用等を想定した整備を進めるなど、市民が安全・安心に利用できる公園づくりを推進すると共に、老朽化した都城運動公園内の代替施設として早水公園に集約し、屋内体育施設の拠点としても整備を行いました。

平成28年度に弓道場が完成、平成30年6月末にはサブアリーナ・武道場が完成し、現在は北駐車場、園路等の整備を進めているとのことでした。

### ③宮交ボタニックガーデン青島の再整備（宮崎市）

昭和40年に亜熱帯植物の学術研究や植物の教育の場として整備、開園以来50年以上が経過し、施設の老朽化が課題となっていたことから、平成26年度から施設の再整備（旧大温室の建替えや室内の充実等）に着手し、平成28年3月にリニューアルオープンしました。リニューアル後は、来園者が大幅に増えただけではなく、周辺の民間施設の開発が次々と動き出すなど、青島地域の活性化の起爆剤となっているとのことでした。



### ④生目の杜運動公園（宮崎市）

市制70周年記念事業として、市民が生涯を通じてスポーツに親しむことのできるための総合スポーツ公園として整備されました。春と秋に福岡ソフトバンクホークスのキャンプ地として賑わいをみせており、また、1年を通して世界並びに全国規模の各種スポーツ大会も数多く開催され、「スポーツランドみやざき」を推進するうえで、重要なスポーツ施設の一つを担っているとのことでした。

## ■おわりに

今回の都市計画全国大会では、災害に強いまちづくりや中心市街地の活性化など、近年課題となっているような事例を紹介していただきました。このような課題に立ち向かうためには、地域と行政が一体となり取り組む必要性を改めて感じました。特に今回の事例では、地域の方々が様々な形で積極的にまちづくりに関わっていることがとても印象に残り、大変参考になる有意義な研修となりました。

